

令和4年度第2回松戸市公共施設再編整備推進審議会 議事要旨

日時：令和4年12月27日（火）10：00～12：00

場所：オンライン会議

出席者：柳澤 要委員（会長）、藤村 龍至委員（副会長）、池澤 龍三委員、
村山 顕人委員、小川 早苗委員

（欠席：渋谷 寛之委員）

事務局：伊東 朱美（総合政策部長）、谷口 武（総合政策部参事）

弓木田 誠（公共施設再編課長）、青柳 英生（公共施設再編課専門監）

柳原 宏昭（公共施設再編課主査）

議事

- 1 松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について
- 2 その他について

- 1 松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について

事務局より、「資料1-1：松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について」、「資料1-2：「松戸市公共施設等総合管理計画の改訂について」における委員からのご意見について」、「資料2-1：松戸市公共施設等総合管理計画（改訂版素案たたき台）構成（案）」、「資料2-2：松戸市公共施設等総合管理計画（改訂版素案たたき台）」について説明を行った。

<主な意見>

計画改訂のポイントと委員からのご意見について

- Y 今後の行政サービスを担うにあたっては、DXが施設のあり方についても非常に大きな影響を及ぼし、今後の施設の姿・形は変わっていくと思う。新たな課題への対応として、DXに対応した施設管理や施設のあり方を念頭に置く必要がある。
- Y 再編整備の取組の一例（集約・複合・転用・減築・民間施設の活用・運営方法等）が記載されているが、今後はこれらをもっと積極的に検討しなければならないと思う。このような取組を松戸市ではどのように検討し、どのくらい実現可能性があるのか、現時点での事務局としての評価と今後の展望等があれば教えていただきたい。
第1期公共施設個別施設計画において、令和10年度までの取組を示したので、これからは進捗管理を行う。また、これまで庁内体制の強化を図ってきたことから、次年度以降は、令和10年度までの第1期計画の進捗管理とあわせて、第2期に向けての取組を施設所管課との間で、積極的に展開して参りたいと考えている。
- Y 公共施設・インフラ施設ともに長寿命化し、目標使用年数を伸ばしていく方向である中で、総合管理計画の計画期間を短くする。松戸市では公共施設の建設のピークが大体1975年だとすると、その公共施設を更新するピークは計画期間を短縮すると見えなくなる。そのことについて事務局ではどのように考えているのか。
計画期間の短縮については、中長期的な視点を持ちながら、取組の方向性については、中期である20年で行い、それをローリングしながら推進する。費用試算等については、計画期間に捉われず、長期間での試算も検討していきたい。

構成（案）について

特に意見無し

第1章 公共施設等総合管理計画について

Y 総合管理計画（改訂版素案たたき台）の3ページ、表1-1 公共施設の分類について、主な施設の欄は中分類を記載した方が資料として統一感が出ると思う。

第2章 公共施設等の現状及び将来の見通し

Y 総合管理計画（改訂版素案たたき台）の6ページには、人口集中地区が増えたということ 鉄道等の公共交通ネットワークにより市街地が整備されたこと 地域ごとに公共施設の整備をしてきたことの3つが説明されている。この説明したことを図2-2で示すべきだと思う。

Y この審議会で、人口動態から地理的に3つの類型に地域を分類した。水戸街道沿線の地域、以前の人口急増地域、現在の新興住宅地では人口動態の傾向が違い、公共施設の戦略が変わってくると思う。

Y 総合管理計画は、経済的視点から数値目標を設定することが多いが、立地に関する方向性が見えにくい。都市計画の状況を踏まえた総合管理計画になるように検討していただきたい。

Y 総合管理計画の数値目標として、市全体の延床面積を一律何割以下に削減すると記載するのではなく、これまで議論しているような地域特性を踏まえた上での取組になるように考えると良いと思う。

第3章 公共施設等の総合的かつ計画的な管理に関する基本的な考え方

Y 施設ごとの現状と方針が示されているが、地域ごとの公共施設再編整備の方針について検討いただきたい。

Y ユニバーサルデザイン化の推進方針については、公共施設へのアクセスも重要だと感じている。また、サインやジェンダーフリー、インクルーシブ的な視点も検討しても良いと感じる。

Y 脱炭素化の推進方針については、用途の集約・複合化によって電力のピークカットや徒歩や自転車、公共交通でアクセスできる場所に公共施設を配置することで施設へ移動する際に、脱炭素化に貢献するという内容もあると良い。

Y 気候変動の適応策として、暑い日に涼しいところに逃げ込むクライメートシェルターとして公共施設が貢献することや、大雨に備えて敷地の雨水マネジメントを行うという視点も重要と考える。

- Y 総合管理計画（改訂版素案たたき台）の 25 ページ、 統合や廃止の推進方針について、現在は利活用方針が決まるまでは解体費はつけないという時代になっているようで危惧している。長寿命化をしても将来は必ず解体が必要で、それを将来世代が担うということが、総合管理計画で本来やろうとしていた、次世代の負担を減らすこととは逆行している。総合的、計画的に解体を実施する時代になったということを総合管理計画の中で、正確に伝えた方が良いのではないかと思う。
- Y 実際に施設を診断したりすると長寿命化するよりも建替えた方が LCC は削減されるという結果がでることが多々ある。長寿命化は慎重に考えていく必要がある。解体して、集約・減築して効率的に入れ替えた方が長期的にはコスト削減になることもある。
- Y 公共施設の再編で最終的に取り組むのは教育施設となるが、最近は「統廃合」という言葉よりも「再配置」という表現を使うことが多い。

第 4 章 計画の推進、参考資料

- Y 総合管理計画（改訂版素案たたき台）の 45 ページに記載の PDCA サイクルにおける A（アクション）は自治体においては予算要求することではないかと思う。本来は、もう一つ小さなサイクルがあって、予算が付いた段階で、この実行計画を作る必要があるということを行内の職員が認識を持つと良いと思う。図に記載の大きな PDCA サイクルで話を終わらせると「あったらいい計画」と所管課は思いがちになる。
- Y 総合管理計画は品質面と財務面を確保するということであり、究極の目標は総量削減することではなく、安全を確保すること。定量的な数値目標についても、安全を確保するための数値を掲げて、本質を捉えている自治体もある。
- Y 総合管理計画（改訂版素案たたき台）の 45 ページに記載の(2)市民・議会への説明について、地域と一緒に考えていく姿勢が表現できると良いと思う。

- 2 その他について
特になし

（以上）